

2009年度 学校自己評価システムシート 早稲田大学本庄高等学院

目指す学校像	早稲田大学建学の精神に基づき、中学校における教育の基礎の上に高等普通教育を施し一般的教養を高め、健全な批判力を養い、国家および社会の形成者として有意な人材を養成し、さらに進んで深く専門の学芸を研究するに必要な資質を育成する。
--------	--

重点目標	<p>1 早稲田大学で一貫した教育体系の中で、生徒の学力向上や学部進学への意欲の涵養のためのプログラムを一層推進する。</p> <p>2 教員一人ひとりの授業の改善、学級経営、学校の安全管理、入試広報等をさらに充実する。</p> <p>3 本校が取り組む人権教育、学校行事、国内外交流、部活動等を通じて、心身ともに優れ、国際社会で活躍できる生徒の育成を目指す。</p> <p>4 生徒のより良い成長に資するため保護者、卒業生との連携、地域との連携を図る。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(月日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	早稲田大学で一貫した教育体系の中で、生徒の学力向上や学部進学への意欲の涵養のためのプログラムを一層推進する。	<p>高大一貫教育</p> <p>学力向上のための施策を積極的に推進する。</p> <p>学部進学への意欲の涵養</p>	<p>・選択科目の増設と充実</p> <p>・わかりやすい授業、オリジナルティーの追求、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。</p> <p>・開校以来行っている卒業論文のきめ細かな指導をする。</p>	<p>第2外国語の設置 オンデマンド授業の設置</p> <p>「授業評価」の完全実施</p> <p>卒論報告会</p>	<p>・中国語、朝鮮語に加え、ドイツ語、フランス語、スペイン語ロシア語を設置した。</p> <p>・人間科学部オンデマンド科目基礎心理学、認知心理学、発達行動学、色彩情報論、脳の構造と機能、環境管理計画学を設置した。</p> <p>生徒によるWeb授業評価は、5段階評価の平均値は「教員は熱心でしたか？」4.2、「理解しやすい授業でしたか？」3.8、「この分野に対する興味・関心は増しましたか？」3.7であった。無回答率がどの項目も昨年より若干増えた。</p> <p>全体会(学院教員のミニ講義)の後に、3つの分科会形式をとって実施した。結果的に聴講態度の良さにつながった。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・第2外国語の性格付けと選択数の制限をどうするか。</p> <p>・効果を検証する。</p> <p>・評価を高める努力をする。無回答率を下げる。</p> <p>・慶應との交流会を兼ねているため、分科会形式の見直しが必要である。</p>
2	教員一人ひとりの授業の改善、学級経営、学校の安全管理、入試広報等をさらに充実する。	<p>授業改善のため、研修に努める。</p> <p>生徒指導の充実を図る。</p> <p>学校の安全管理を徹底する。</p>	<p>・教員一人ひとりが質の高い授業を目指し、研究活動を充実させる。</p> <p>・小規模学校のメリットを生かし、一人ひとりの生徒に目の届く指導体制をとる。</p> <p>・教員の日直制を構築し管理会社と連携を深める。</p>	<p>・著書、論文等の執筆を積極的に行う。また、研究会や学会等への参加を推進する。</p> <p>・問題行動の指導事例数</p> <p>・防犯体制の確立</p>	<p>・論文数、学会発表数とも大幅に増加した。</p> <p>・指導数は年間5であった。</p> <p>・防犯カメラを1台追加設置した。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・研究の質を高める。</p> <p>・日直の実施を徹底する。</p> <p>・施設面の安全点検と安全性の向上に努める。</p>

学校関係者評価	
実施日	平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

3	<p>本校が取り組む人権教育、学校行事、国内外交流、部活動等を通じて、心身ともに優れ、国際社会で活躍できる生徒の育成を目指す。</p>	<p>人権教育を推進する。</p> <p>国内外交流をさらに推進する。</p>	<p>・人権講話、人権に関わる研修会に参加する。</p> <p>・国内外交流を通じて参加した生徒が成長することを期待する。</p>	<p>・人権講話を行うとともにその有効性を検証する。</p> <p>・交流行事に積極的に参加しているか、また、交流内容は充実したものか確認する。</p>	<p>・水谷修氏を招いて「命の大切さ」というテーマで講演会を行った。</p> <p>・中国、韓国、台湾の3コースで修学旅行を実施し、それぞれに成果をあげた。</p> <p>・国内外交流プログラムに多数参加した。</p>	A	<p>・コース選択の問題がある。</p> <p>・事前学習の充実を図る。</p> <p>・交流に伴う負担の軽減をどうするか。</p>	
4	<p>生徒のより良い成長に資するため保護者、卒業生との連携、地域との連携を図る。</p>	<p>保護者との連携をさらに強める。</p> <p>卒業生との連携を深める。</p> <p>地域との連携を図る。</p>	<p>・保護者への情報発信を質、量ともに増やす。</p> <p>・保護者の意見を幅広く聞く。</p> <p>・同窓会組織の活用を図る。</p> <p>・地域の連携を図るとともに地域の力を教育に反映させる。</p>	<p>・年2回の保護者会が有効に機能しているか、検証する。</p> <p>・その他の情報発信を強めるための方策を考える。</p> <p>・ウィンターセミナーへの協力を求める。</p> <p>・本庄市、また本庄市の7つの高校と連携し、新たな取り組みを策定する。</p>	<p>・6月の保護者会には9割前後の保護者が参加した。</p> <p>・広報誌「緑風」「杜」を定期的に発行している。</p> <p>・保護者の会からも、「杜エクスプレス」などの情報の発信がある</p> <p>・「保護者アンケート」を年2回行う。</p> <p>・同窓生が講師となり、それぞれの専門分野などについて講演を行った。</p> <p>・地元首長に高校生の立場から「町づくり」施策を提言する「セブンスクールサミット」の中心高校としてその運営に関わった。</p>	A	<p>・12月の保護者会が平日に行われたが、土日に実施してほしい要望があった。</p> <p>・保護者からのクレームの問題があり、対応に追われた。</p> <p>・個人情報保護の観点から取材方法を検討する。</p> <p>・アンケート結果を共有する。</p> <p>・同窓会・後援会の活動展開のための支援のあり方を検討する。</p> <p>・継続性を模索する。</p>	